

令和2年度BSCフォローアップシート（年度末評価用）

病院(所属)名:小児保健医療センター

区分	シナリオ	戦略的目標	BSCの当初目標設定内容					年度末進捗状況		評価・今後の対応		
			業績評価指標	前年度実績	数値目標	数値目標達成率	5段階評価	主なアクションプラン	アクションプラン実績			
顧客の視点	<p>診療体制の充実</p> <p>難治・慢性疾患児への質の高い医療サービス・全県型医療の提供</p> <p>政策医療の提供</p> <p>子どもが大きな目に見えない医療提供システムの構築</p> <p>在宅医療支援の充実</p> <p>地域の医療機関等との連携強化</p> <p>NICU等の後方支援</p> <p>在宅療養の支援</p>	患者満足度の向上	今後も当院を受診したい人の割合	外来84% 入院95%	外来100% 入院100%	外来90% 入院91%	B B	1 2	外来待ち時間の短縮 患者サービスの向上 呼吸ケアサポートチーム活動	外来84%→90% +6ポイント 入院95%→91% △4ポイント	入院については、病床利用率が低下したことに伴い、アンケートの回答母数が減ったこともあり、△4ポイントとなった。外来については、6ポイント増加しており、引き続き、入院・外来とも、患者満足度向上に向けて取り組んでいく。	
		難治・慢性疾患児への質の高い医療サービス・全県型医療の提供	重症患児数 (※超重症患児数+準超重症患児数)	710人	790人	504人	C	2	呼吸ケアサポートチーム活動	[重症患児数…710人→504人 △206人] [呼吸ケアサポートチーム活動実績] ・呼吸ケアサポートチームラウンド…127件→153件 ・認定看護師へのコンサルテーション依頼対応…41件→38件	重症患児数は、前年と比べ減少したものの、呼吸ケアサポートチームのラウンド数は増えており、きめ細やかな対応に努めている。今後も地域の医療機関等との連携を図り、一般医療機関等に対応が困難な重症度患者を受け入れながらこれまで以上の専門的医療ケアを行った。	
		慢性疾患患者の救急体制強化	時間外慢性疾患患者救急受入れ応需率 (※患者受入件数/受入依頼件数)	98.9%	100.0%	100.0%	A	3	救急受入れのための病床管理	・時間外患者受入件数…278件→140件 △138件 うち入院受入件数…130件→62件 △68件 ・受入依頼件数…285件→140件 △145件	受入依頼が減少しているが、依頼のあったものは、すべて受け入れた。今後も可能な限りベッドコントロール等を行い個室確保に努め、慢性疾患の救急体制強化に資する。	
		政策医療の提供	精密健康診断実施数	1,470件	1,500件	1,316件	B	4	直接受診者の受入れ 市町担当者説明会の実施 広報紙やホームページ等を活用した広報の充実	・コロナ感染症により乳幼児精密検査従事者研修を実施できず、市町の乳幼児健診も遅延している中、技術支援の通知を発出するなどにより疾患の早期発見を促進した。 ・保健指導部受付…1,075件→976件 △99件 ・直接受診者…395件→340件 △55件	乳幼児精密検査従事者や、その他の小児に関わる職種を対象に研修会を実施した。今後も市町との連携を図るとともに、必要とされる精密健康診断を実施し、障害の早期発見と除去、軽減に努める。	
		地域の医療機関等との連携強化	びわ湖あさがおネット患者登録者数	318件	350件	530件	S	5-1	びわ湖あさがおネットの利用登録に関する患者家族への説明および勧奨	[延登録患者数…318件→530件 +212件] [紹介] ・患者数 …2,241人→2,108人 ・紹介率 …48.9%→54.0% +5.1ポイント	びわ湖あさがおネットの登録患者数は増加しており、紹介率・逆紹介率も上昇した。今後とも患者がどこでも安心して療養できるよう、びわ湖あさがおネットの登録患者数を増やすとともに、より充実した医療連携を図る。引き続き、積極的な広報やホームページの充実等により当センターの特色や機能を発信することで医療ニーズの掘り起こしを進め、紹介率の向上を図る。	
		在宅医療支援の充実	在宅療養の支援	年間受入件数	814件	870件	513件	D	7-2	適切なベッドコントロール	[レスパイト入院患者数…3,255人→2,184人 △1,071人 ・1日平均入院患者数…8.9人→6.0人 △2.9人]	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため療育研修会(摂食嚥下研修会を含む)については集合研修にかえて「研修会通信」をHPに掲載し、関係機関に発信した。また、視覚障害児早期療育研修会はオンライン開催で実施した。今後、研修会は、オンライン開催を中心に計画的に実施する。
		地域の療育機関等への支援	療育研修会の実施	7回	12回	4	D	6	療育研修会の実施	・療育研修会および摂食嚥下研修会の集合研修は中止 ・療育研修会通信発行 3回(テーマは7題) ・視覚障害児早期療育研修会(オンライン) 1回 ・療育参観は中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため療育研修会(摂食嚥下研修会を含む)については集合研修にかえて「研修会通信」をHPに掲載し、関係機関に発信した。また、視覚障害児早期療育研修会はオンライン開催で実施した。今後、研修会は、オンライン開催を中心に計画的に実施する。	
		在宅療養の支援	平均在院日数	9.5日	9.5日	10.6日	B	7-1	適切な診療および在院日数の設定	[平均在院日数…9.5日→10.6日 +1.1日] ・整形外科…28.7日→20.2日 △8.5日 ・小児科…6.7日→8.6日 +1.9日 ・眼科…1.8日→2.1日 +0.3日 ・耳鼻科…4.3日→3.4日 △0.9日 ・リハ科…11.9日→14.0日 +2.1日	院内感染防止の観点から整形外科等で在院日数を要する手術の延期を行ったことにより整形外科等で平均在院日数の減少はあったが、小児科では軽症者の不入院を延期したことから平均在院日数が延び、全体の平均在院日数が延びた。また、レスパイト入院についても、院内感染防止のため、受け入れを制限したため受け入れ件数が減少した。今後も感染防止に努めながら手術・入院制限の緩和により適切な入院治療により平均在院日数の短縮を図るとともに在宅療養支援レスパイト入院の応需拡大により在宅療養の支援に努める。	
		在宅療養の支援	年間受入件数	814件	870件	513件	D	7-2	適切なベッドコントロール	[レスパイト入院患者数…3,255人→2,184人 △1,071人 ・1日平均入院患者数…8.9人→6.0人 △2.9人]	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため療育研修会(摂食嚥下研修会を含む)については集合研修にかえて「研修会通信」をHPに掲載し、関係機関に発信した。また、視覚障害児早期療育研修会はオンライン開催で実施した。今後、研修会は、オンライン開催を中心に計画的に実施する。	
		財務の視点	<p>経営基盤の安定化</p> <p>病床利用率の向上</p> <p>財務管理の徹底</p>	病床利用率の向上	病床利用率	70.3%	60.0%	47.6%	C	8-1	手術件数の増 計画的な検査・リハビリ入院の促進 レスパイト入院等の拡大 医師の確保 地域連携の強化 広報紙やホームページ等を活用した広報の充実	(手術件数…580件→460件 △120件) ・整形外科…267件→253件 △14件 ・耳鼻科…189件→104件 △85件 ・その他…124件→103件 △21件 [医師数(専攻医含む)20人→19名 △1名] [新規入院患者数 2,447人→1,501人 △946人]
財務管理の徹底	経常収支比率			95.2%	80.7%	83.9%	A	9	診療費の増 診療費の確保 診療材料等の見直し、選定による経費の削減	[経常収支比率 95.2%→83.9% △11.3ポイント] 収益 3,097,392千円→2,813,894千円 △283,498千円 △9.2% ・入院収益 1,590,479千円→1,322,727千円 △267,752千円 △16.8% ・外来収益 735,859千円→641,010千円 △94,849千円 △12.9% ・その他収益 771,054千円→850,157千円 +79,103千円 +10.3% 費用 3,255,499千円→3,353,693千円 +98,194千円 +3.0% 差引収支 △158,107千円→△539,799千円 △381,692千円	手術件数の減少・入院延期などによる病床利用率の低下や外来診療抑制による外来患者数の減少などにより診療収益の大幅な減少となった。費用については、診療行為減に伴う材料費の減少はあるものの診療収入減ほどの減少はなかった。また固定経費も増加していることから経常収支比率は大幅な悪化となった。今後、診療体制の充実を図り、嚥下機能評価、リハビリ入院の促進、プレ入院導入の検討、新規入院患者数の増などにより病床利用率の改善等に努めることで診療収益の確保を図りながらより一層の経費の削減を行い、経営改善に努める。	
経営基盤の安定化	新規入院患者数			2,447人	2,745人	1,501人	D	8-2	医師の確保 地域連携の強化 広報紙やホームページ等を活用した広報の充実	[医師数(専攻医含む)20人→19名 △1名] [新規入院患者数 2,447人→1,501人 △946人]	延期可能な手術を延期したことから耳鼻科で前年同期比で45.0%減など手術件数で20.7%減となった。また、小児科でも不入院を抑制したことなどから病床利用率が前年同期比で32.4%の減となった。今後、診療体制の充実を図り、嚥下機能評価、リハビリ入院の促進、プレ入院導入の検討、新規入院患者数の増などにより病床利用率の改善に努める。	
内部プロセスの視点	<p>働きやすい職場環境の整備</p> <p>職員満足度の向上</p> <p>効率的な職場環境づくり</p>	職員満足度の向上	現在の仕事に充実感や達成感を感じている職員の率(肯定的回答率)	71.7%	75.0%	86.2%	A	10	職員提案の募集および採用 面接の実施 チーム医療・多職種連携の推進	(仕事に充実感や達成感を感じている職員の割合 +14.5ポイント) 医師 △17.6% 看護師 +18.6% 医療技術 +12.8% 事務 +9.2%	日々、改善や工夫を意識して仕事に取り組んでいる職員が多く、日頃から問題意識を持って業務にあたることができている。また、医師以外の職種では、仕事に充実感や達成感を感じている職員の割合は増加しており、引き続き、職員がやりがいを感じることができる職場づくりに努めていきたい。	
		効率的な職場環境づくり	職員一人あたりの時間外勤務時間数	19.8h	18.0h	15.5h	A	11	院内会議、研修等の時間内開催 適正な労務管理 弾力的な人員配置	[時間外勤務時間数 35,477h→26,209h △9,268h] ・医師 (43.2h→35.5h △7.7h) ・看護師 (16.8h→11.6h △5.2h) ・医療技術 (16.5h→14.4h △2.1h) ・事務等 (19.0h→18.4h △0.6h)	時間外勤務削減にかかる職員意識の醸成と病床利用率の低下などの影響で、時間外勤務時間は前年同期より9,268時間(26.1%)減少している。一人当たりの月の時間外勤務時間もすべて職種で減少となった。引き続き、時間外勤務時間の削減に努める。	
学習と成長の視点	<p>専門的人材の確保・育成</p> <p>専門的人材の確保</p> <p>研究活動への支援</p>	臨床研究活動への支援	論文発表数	20本	25本	21本	B	12	補助数の増	・整形外科…5本→5本 ・小児科…11本→11本 ・耳鼻科…3本→5本 ・検査科…1本→0本	前年度よりは1本増えたが、数値目標には達しなかった。引き続き、研究活動を支援のうえ、専門医療技術および当センター認知度の向上を図るとともに、人材確保に努めていく。	
		教育の充実	専門研修派遣者数	297人	200人	87人	D	13	研修参加の奨励	・小児科…12人→0人 ・リハ科…9人→5人 ・検査科…14人→3人 ・栄養指導科…2人→0人 ・看護部…178人→42人 ・保健指導部…21人→35人 ・療育部…58人→0人 ・事務局…3人→2人	研修会の中止・参加見送りなどによりほとんどの所属で研修への派遣者数が減少となった。引き続き、オンライン研修負担金助成や専門研修などへの参加推進により専門知識を備えた人材育成を図る。	